

# 田尻町中長期財政シミュレーション (令和4年度推計)

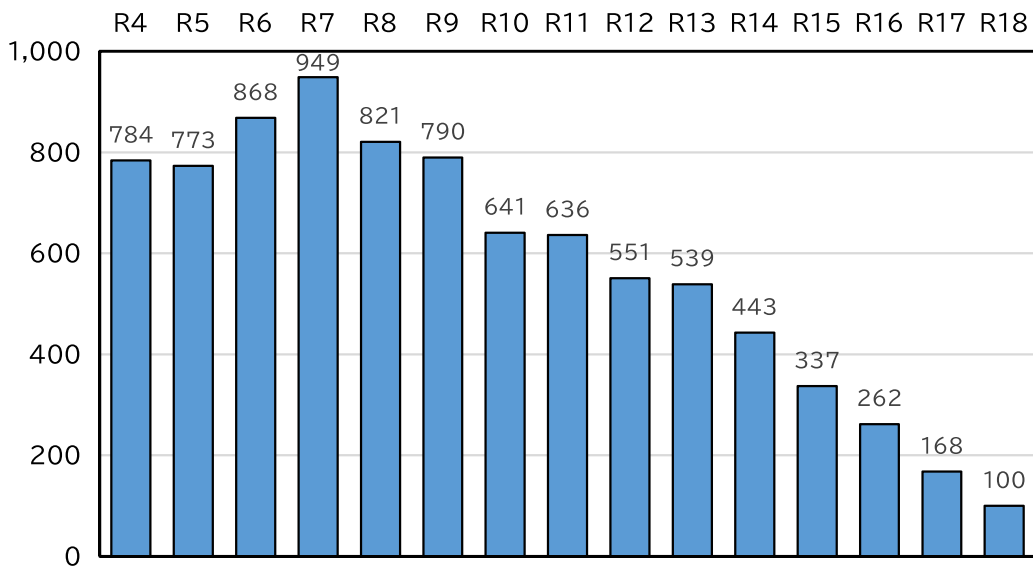
- 大阪府と市町村が共同で取り組んできた『基礎自治機能の維持・充実にに関する研究会』などの成果を踏まえながら、財政基盤が脆弱な町村を対象に、人口減少・高齢化などがもたらす将来課題が長期的財政収支にどのような影響を与えるかを分析するために、令和2年度から毎年財政シミュレーションを作成。
- 令和4年度も、令和3年度決算をベースにシミュレーションを更新。この結果を踏まえつつ、今後、さらなる広域連携や行財政改革の推進など、必要な取組みについて検討。

令和5年5月  
大阪府/田尻町

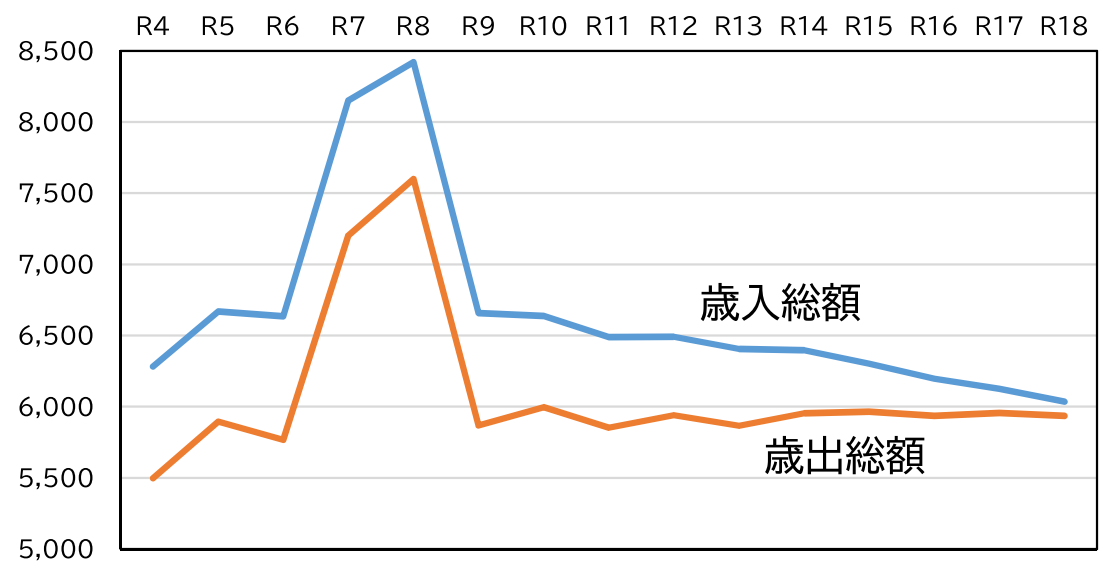
# 1. 田尻町の中長期財政シミュレーション

- 今後の財政収支は、豊富な町税を背景に単年度収支の黒字が続く一方、人口と連動して町税が緩やかに減少し、社会保障関係経費や物件費等が増加していく見通し
- ➡ 令和8年度以降、単年度収支の黒字は減少していく見通し

(百万円) 【 収支過不足 】



(百万円) 【 歳入総額・歳出総額の見通し 】



(単位:百万円)

	R3決算	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
財政調整基金残高	4,495	4,771	5,163	5,550	5,984	6,459	6,870	7,265	7,586	7,904	8,180	8,450	8,672	8,841	8,972	9,056

※ この試算は不確定要素を多く含んでおり、将来に向かって相当の幅をもってみる必要がある

## 2. 財政シミュレーションの試算方法

- 令和3年度決算をベースに15年間推計
  - ※ 新型コロナウイルス感染症の流行がR3決算値に及ぼした影響を控除することは困難であるため、控除しない。
- 人口推計に連動しうる費目は、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の平成30年推計と連動
- その他の費目は、近年(原則、直近の3か年)の増加率や平均値などから試算
- コロナ禍などによる景気動向、令和4年度に顕在化した物価高騰が町村財政収支に及ぼす影響は本試算に織り込んでいないが、財政収支への影響が大きいと想定されるので留意が必要

	主な費目	考え方・傾向
歳入	町税	人口に連動する税目(個人町民税など)が <b>減少</b>
	地方交付税等	普通交付税は不交付 特別交付税は <b>近年と同水準</b>
	国・府支出金	歳出と連動 補助費等の増加と連動して <b>増加</b>
	地方債	歳出と連動
	交付金・譲与税等、諸収入(使用料・手数料、財産収入、寄附金など)	近年と同水準

※ 原則として、特定目的基金からの繰入金は見込まず、各年度の財源不足額には財政調整基金からの繰入金のみを充当

	主な費目	考え方・傾向	
歳出	人件費	給与等は近年と同水準／退職手当は個別に積上げ	
	扶助費	近年の増加率や今後の高齢化を踏まえ <b>増加</b>	
	補助費等、物件費	近年の増加率を踏まえ <b>増加</b> ※R2・R3は、新型コロナウイルス感染症関連事業費が大きく(特に補助費)、近年の傾向と比べ特異であるため、増加率の算定対象年度から除外	
	建設事業費	近年と同水準／ <b>大規模事業は個別に積上げ</b>	
	公債費	既発分は町による推計 新発分は歳入の地方債と連動	
	繰出金		国保特会と後期高齢特会は人口連動 介護特会は府全体の介護給付費総額の推計値と連動 下水特会は近年と同水準
			全体として <b>増加</b>

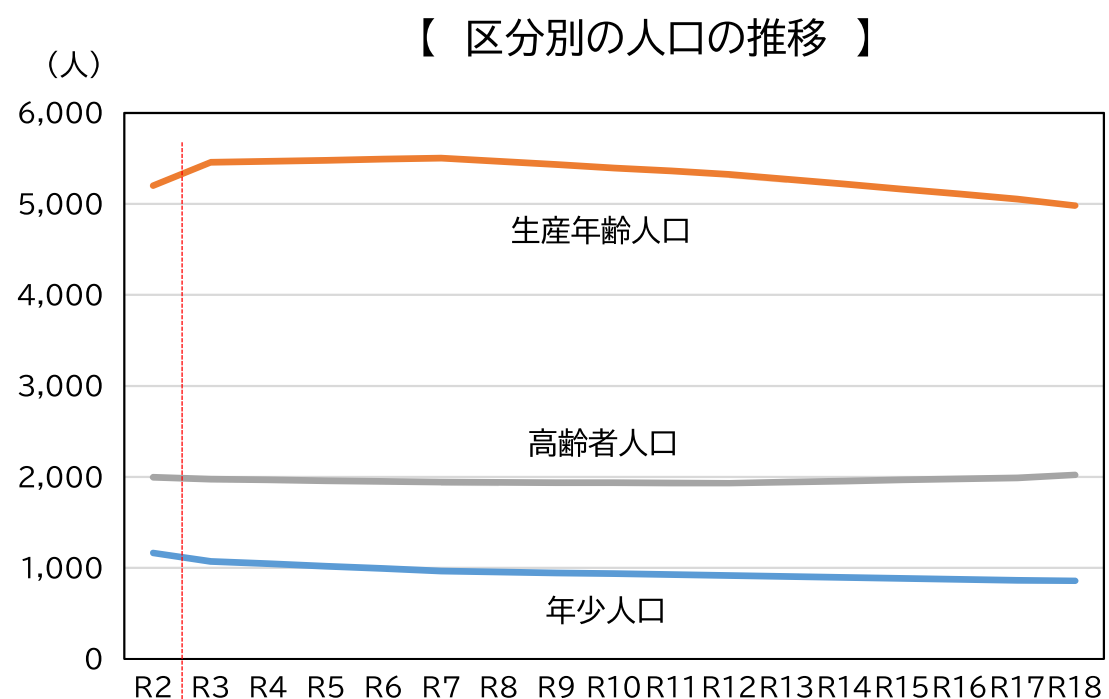
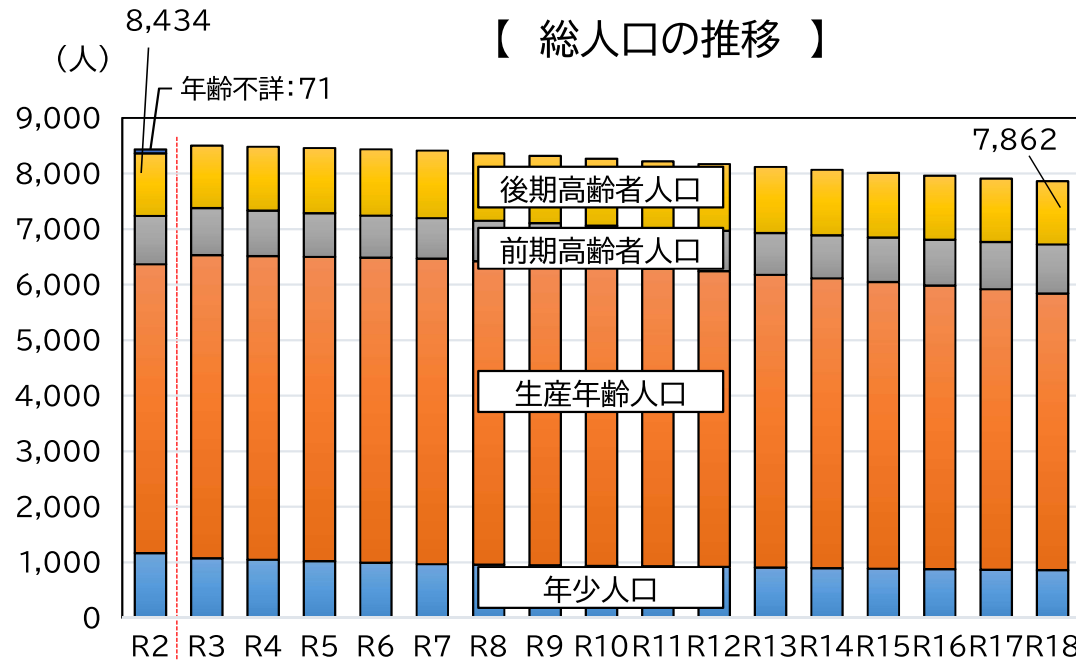
# 3. 田尻町の人口推計 (国立社会保障・人口問題研究所 将来人口推計(平成30年)より)

- 国立社会保障・人口問題研究所が公表している最新の人口推計によれば、田尻町は今後、生産年齢人口と年少人口が減少する一方で、高齢者人口は横ばい
- 令和2年国調から令和18年までの17年間で、
  - ・総人口に占める年少・生産年齢人口の割合は 約1pt 減
  - ・総人口に占める高齢者人口の割合は 約2pt 増

※ 社人研推計は、H27年国調をベースに5年ごとの推計を実施しているため、本試算においては、5年先の推計に向けて均等に増減するものと仮定

	R2(国調)
年少人口	13.8%
生産年齢人口	61.7%
前期高齢者人口	10.3%
後期高齢者人口	13.4%
年齢不詳	0.8%

	R18	変化
年少人口	10.9%	(▲ 約1pt)
生産年齢人口	63.4%	(▲ 約1pt)
前期高齢者人口	11.2%	(+ 約2pt)
後期高齢者人口	14.5%	(+ 約2pt)



国調

社人研推計

国調

社人研推計

# 4. 財政シミュレーションの留意事項（一斉に老朽化する公共施設等への対応）

- 一斉に老朽化する公共施設等への対応により、普通建設事業費は今後確実に増加していくことが見込まれるものの、本試算ではこうした影響を的確に反映できていない。
- 本試算では建設事業費を毎年約4.7億円(大規模事業は除く)見込んでいるところ、田尻町が公表している公共施設等総合管理計画では、公共施設物やインフラ施設の更新・改修費用として、今後40年間に約200億円、1年あたり5.0億円程度の経費が必要と見込まれており、財政収支への影響に留意が必要。

## ◆ 田尻町公共施設総合管理計画

### 【 基本情報 】

策定年月	平成29年3月
改訂年月	令和3年12月
計画期間	10年
施設保有量	【公共施設】 41,666.03㎡ 【インフラ施設】 道路:35,158m、203,016㎡ 橋りょう:403.37㎡ 下水道:約61km スポーツ施設:約3.4万㎡

### 【 維持管理・更新等にかかる経費 】 (将来にわたる経費の見込み)

耐用年数経過時に単純更新した場合の(自然体の)見込み	今後40年間で総額が約261.6億円 (年平均額は約6.5億円)
個別施設計画等にかかる対策を反映した見込み	<u>今後40年間で総額が約200億円</u> (年平均額は約5.0億円)

# 4. 財政シミュレーションの留意事項（国の地方財政措置、自主事業等の再開）

- 国が令和2年度に創設した「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(以下「臨時交付金」)」を、これまで振興券などの事業に要する経費の全部または一部に活用。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年以降実施を見送った自主事業などがあり、不用額が発生。

【臨時交付金の充当額、主な対象事業】(R4は予定)

【コロナ禍により実施を見送った事業】

※ 府内市町村が実施を見送った事業を例示

年度	充当額	主な対象事業
R2	約0.8億円	振興券事業
R3	約0.3億円	振興券事業
R4	約0.3億円	振興券事業

- ・地域振興イベントや夏祭りなどの実施団体への補助事業
- ・農業祭・林業祭など地域産業振興に関する催し
- ・小・中学校における社会見学等の校外学習
- ・新年交礼会・スポーツ大会 等

※充当額：各年度の実施計画に記載され、実際に事業実施に活用した額(R4年度は国からの配分額。但し本省繰越額は除く。)

- 長引くコロナ禍や急激な物価高騰等への対応など、国の財政も厳しい状況にある。
- 新型コロナウイルス感染症対応として行われた国から地方への財政移転については、感染収束後、早期に地方財政の歳出構造を平時に戻すとされている(「骨太の方針2022」より)。
- 自主事業などの再開は、経費発生(不用額の減少要因)となる。  
➔ 今後、**臨時交付金**はもとより、**国の地方財政措置の状況には十分な留意が必要**

# (参考) 財政シミュレーションの推計表

(単位:百万円)

区 分		(参考) H30(決算)	(参考) R1(決算)	(参考) R2(決算)	R3(決算)	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
歳 入	町税	4,421	4,274	3,577	3,906	4,086	4,087	4,088	4,089	4,086	4,083	4,081	4,079	4,076	4,069	4,061	4,055	4,047	4,040	4,036
	地方交付税(臨財債含む)	12	9	7	5	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	交付金・地方譲与税等	271	285	325	454	373	366	367	367	368	368	369	369	370	370	370	370	370	370	370
	国・府支出金	648	692	1,599	1,161	1,066	1,227	1,132	1,749	1,776	1,181	1,192	1,195	1,204	1,211	1,221	1,230	1,238	1,247	1,255
	地方債	0	0	0	0	0	0	0	655	673	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	諸収入	175	167	137	232	198	198	198	198	198	198	198	198	198	198	198	198	198	198	198
	前年度繰越金	369	386	553	424	552	784	773	868	949	821	790	641	636	551	539	443	337	262	168
	繰入金(特定目的基金等)	0	182	2	512	0	0	70	218	364	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	繰入金(財政調整基金)	0	0	0	0															
	歳入合計	5,896	5,995	6,200	6,694	6,282	6,669	6,635	8,151	8,421	6,658	6,637	6,489	6,491	6,406	6,396	6,303	6,197	6,124	6,035
歳 出	人件費	1,212	1,253	1,251	1,392	1,348	1,276	1,348	1,276	1,383	1,276	1,383	1,276	1,330	1,276	1,330	1,348	1,330	1,348	1,330
	扶助費	500	531	559	772	790	814	845	883	883	883	883	883	883	883	883	883	883	883	883
	公債費	78	77	69	69	63	46	21	21	55	91	91	91	86	71	71	71	71	71	71
	建設事業費(災害復旧含む)	502	573	318	804	467	778	537	1,922	2,102	467	467	467	467	467	467	467	467	467	467
	物件費	555	688	710	898	918	938	959	980	1,002	1,024	1,046	1,069	1,093	1,117	1,141	1,166	1,192	1,218	1,245
	補助費等	747	628	1,609	739	750	761	773	784	796	808	820	832	845	858	870	884	897	910	924
	繰出金	959	875	878	807	869	874	880	885	887	891	894	897	901	902	904	908	909	911	914
	積立金(財政調整基金)	881	731	300	507	276	392	387	434	475	411	395	321	318	276	270	222	169	131	84
	その他	76	84	81	110	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	歳出合計	5,510	5,440	5,775	6,098	5,498	5,896	5,767	7,202	7,600	5,868	5,996	5,853	5,940	5,867	5,953	5,966	5,935	5,956	5,935
収支過不足				596	784	773	868	949	821	790	641	636	551	539	443	337	262	168	100	

(参考)

財政調整基金残高	2,957	3,687	3,988	4,495	4,771	5,163	5,550	5,984	6,459	6,870	7,265	7,586	7,904	8,180	8,450	8,672	8,841	8,972	9,056
----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------



# (参考)基礎自治機能の充実・強化に向けたこれまでの取組み

国立社会保障・人口問題研究所 将来人口推計(平成30年)

- 2045年、府の人口は▲約150万人(▲約17%)
- 年少人口・生産年齢人口は減少する一方、高齢者人口は増加

市町村の役割が大きくなる一方、特に小規模団体では行財政運営が難しくなる(住民税の減少・社会保障関係経費の増加など)

対応の方向

- 安定した行財政運営のためには、課題を的確に予測し、その影響を見通すことが重要
- 他市町村との連携をさらに進め、地域全体で行政課題に対応

府として、積極的に支援・サポート

目指す方向 将来にわたり、基礎自治機能の充実を図る

大阪発“地方分権改革”ビジョン(平成29年3月改訂版)

府として  
目指す姿

中核市並みの基礎自治体  
(市町村間連携を含む)



## 府の主な取組内容

